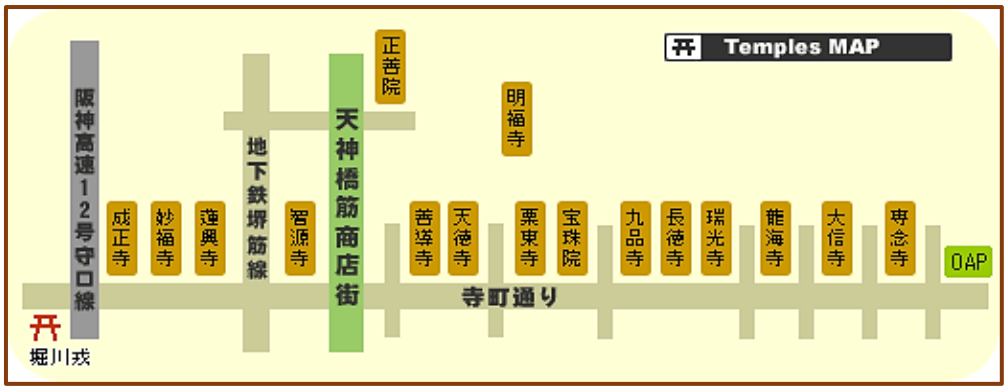
3. 天満寺町　（東から）

・大坂夏の陣で廃墟同然となった大坂の町の復興・整備に努めた松平忠明は、南の空堀付近に中寺谷町、北の天満付近に寺町を置いてここに寺院を集結させ、有事の際、この寺院に兵を駐屯させて前線基地としたが、この天満寺町の各寺院は江戸時代に活躍した有名な大坂町人達の墓所にもなっている。



(イ)「龍海寺」(緒方洪庵と一門の墓所)　　北区同心町1丁目3

・曹洞宗寺院。天正年間(1573～92)に、豊臣秀吉が柴田勝家との戦いで越前に進軍した折、当地の金剛院の住職・宗鶴和尚が茶や蕎麦で一行をもてなしたのを喜び、大坂城築城後の天正12年に、宗鶴を呼び寄せて「龍海寺」を創建させたとされる、大塩の乱で焼失したが無関大和尚が再建し、昭和20年の大空襲で失うも再建された。

・境内に、「緒方洪庵・夫妻と一族の墓」と洪庵の師である「中天游・夫妻の墓」および門下生の「大村益次郎の足塚」がある。

「緒方洪庵・夫妻と一族の墓」(「洪庵緒方先生之墓」・「洪葬先生夫人億川氏墓」)

・境内墓地の一段高いところに、洪庵と妻の墓が2つ並んでおり、ほかに義弟とその妻およびその孫で自由党総裁も勤めた緒方竹虎の墓が3つ並んでいる。

洪庵の墓は、亡くなった江戸・駒込の高林寺にあるが、当寺の墓には洪庵の遺髪が納められている。

「中天游・夫妻の墓」(「天游中先生墓」・「室 海上氏之墓」)

・緒方洪庵は、中天游が開いた蘭学塾「思々斎塾」の塾生で天游を師と仰ぎ、天游夫妻と同じ場所で眠るのが最後の望みであったと言われる。

「大村益次郎の足塚」(「大村兵部大輔埋腿骨之地」)

・洪庵の「適塾」で学び、塾頭も勤めた大村益次郎は、京で刺客に襲われて全身に刀傷を受け、手術を受けるも敗血症を併発して亡くなっており、その遺志によって、切断した片方の足が恩師である洪庵墓の傍に埋葬されている。

(ロ)「宝珠院」　　北区与力町1

・真言宗御室派の寺院。 縁起によれば弘仁年間(810～824)に空海が開基したとされる。高野山草創の頃、空海が京の東寺から高野山に往来する際、しばらくこの地に安居して駄都秘法を練習した所で、後に、高弟の堅恵上人が師の跡を慕って駄都法を修し寺院に改めた。

・貞観年間(859～77)の頃の住職であった4世・恵澄は菅原道真と親しく、道真が太宰府への道中に立ち寄って自作の十一面観世音菩薩像を贈ったとされ、天神信仰と深いつながりのある寺院で、「菅原山 天満宮寺」の勅号がある。

・かっては現在地より東、大川に面した位置に広大な敷地を有していたが、大阪夏・冬の陣後の復興で、市街地整備のため現在地に移された。

・昭和20年の大空襲で土蔵だけを残し灰燼に帰したが、昭和42年に再建され、今日に至っている。 なお、空襲から免れ、現在、本堂に祀られる木造弥勒菩薩立像は鎌倉時代の作で、大阪市指定文化財となっている。

(ハ)「天徳寺」(篠崎三島・小竹の墓所)　　北区与力町2

・曹洞宗寺院。 天正元年(1573)に総持寺の僧・秀雲が創建した。

・境内に、「篠崎三島・小竹」親子と「梅花社」一門の墓がある。

篠崎三島(1736～1813)は、江戸後期の儒者で、大坂を代表する私塾「梅花社」を 創設した。 小竹(1781～1851)は、幼い頃から聡明で学問を好み、9歳で「梅花社」に学んで4年後に三島の養子となり、「梅花社」を引継いだ。頼山陽 とは生涯の親友であった。

(ニ)「善導寺」(山片蟠桃墓所)　　北区与力町2

・浄土宗の寺院で、文禄元年(1592)伝誉慶公上人が念仏道場として開山した。
昭和20年の大空襲で全ての堂宇を焼失したが、昭和30年(1955)に客殿、35年に庫裏、52年に本堂が復興されている。

・近松の「曽根崎心中」に出てくる「大坂33観音霊場」の第8番霊場でもあるが、堂内にあった長谷観音立像は空襲で焼失した。 本尊は阿弥陀如来。

・境内に、江戸時代の町人学者として知られる「山片蟠桃(ﾔﾏｶﾞﾀﾊﾞﾝﾄｳ)」の墓がある。
本堂裏にある「山片蟠桃先生之墓」と刻印された新しい墓石は、子孫が再建(昭和49年)したもので、元の墓は先の大戦で戦災に遭って痛んだおり、本堂の前にある無縁墓群の中に「宗文」(蟠桃の戒名)と刻まれた合同墓として残されている。

播州生まれの山片蟠桃(1748～1821)は、13才で大坂に出た後、今橋の両替商・升屋平右衛門に拾われ、商才を発揮して主家升屋の再興に努力した。特に仙台藩や豊後・岡、藩の財政再建に成功し、それらの功績により主家で親類扱いとなって山片蟠桃を号したが、その号は ”番頭” をもじったものと言われている。
また、懐徳堂で儒学を、麻田剛立に天文暦学を学ぶ等、幅広い分野で独創的な意見を持つ学者でもあり、『夢の代(ｼﾛ)』の著者として知られる。

(ホ)「妙福寺」　　北区末広町1

・日蓮宗の寺院で、元和元年(1616)に広演院日容が建立した。 大坂城に於いて勤修された豊臣家の法要に参列する為に来阪した加藤清正が、暗殺を恐れて当山に宿泊したことから、「清正公」信仰の寺としても知られた。

・昭和20年の大空襲で焼失し、昭和40年まで末寺であった導通寺が移設されていたが、24世・日海上人と25世・日敬上人が尽力して堂宇を再建し、妙福寺を再興した。

・江戸時代初期の豪商「淀屋」の4代目・重当が娶った寄合大名・米津田盛の庶女・日円の墓が見つかっている。

(ヘ)「成正(ｼﾞｮｳｼｮｳ)寺」(大塩平八郎・父子の墓所)　　北区末広町1

・日蓮宗の寺院で、身延山久遠寺の末寺。 慶長9年(1604)に増長院日秀上人によって創建されており、大塩平八郎・父子の墓があることで知られる。
日秀上人は、身延山18世妙雲院日賢上人の高弟で、豊臣秀吉の知遇を受け京都伏見に墨染寺を開山したあと、大阪に停住の地として成正寺を建立した。

「大塩平八郎・父子の墓」

・大坂町奉行与力の大塩平八郎は、飢饉による難民救済のため天保8年(1837)に蜂起するも、鎮圧されて身を隠していたが密告されたため自害し、大塩家本家の菩提寺と同じ身延山末寺であるこの成正寺に葬られた。 本堂の前に息子・格之助の墓と2つ並んでいるが、この墓は、昭和38年に復元されたもので、平成17年の新本堂・落慶にあわせ裏手から移設された。

(ト)「堀川戎神社」　　北区西天満5丁目4

・大阪市内南部の今宮戎神社および兵庫県の西宮戎神社などとともに商売繁盛の神様として知られ、「堀川のえべっさん」の愛称で、毎年1月9日から11日にかけて ”十日戎” が開催されている。 また、今宮戎、西宮戎と並び、「三大戎」に数えられている。

・蛭子(ｴﾋﾞｽ)大神を主祭神とし、少彦名命・天太玉(ｱﾒﾉﾌﾄﾀﾞﾏ)命が配祀されている。

・社伝によれば、欽明天皇（539～571）の時代、止美連（ﾄﾐﾉﾑﾗｼﾞ）吉雄が蛭子大神の神託により堀江で玉を得、それを神体として富島に蛭子大神を祀ったのが始まりで、一時期、平治の乱を避けて丹波国何鹿郡山家に遷座したが、文和年間（1352-1355年）に現在地に遷座し、以降、「堀川戎社」と呼ばれるようになった。
・明治40年（1907）、近隣の神社を合祀して「堀川神社」に改称し、昭和20年の戦災で全ての建物を焼失したが、昭和38年に本殿が再建された。
・境内社である「榎木神社」の本殿（昭和33年・再建）は、地車（ﾀﾞﾝｼﾞﾘ）の形をしており、”地車稲荷” の通称で知られている。
かって天満堀川の堀止め側に榎があり、その根元に木の神・句句廼知（ｸｸﾉﾁ）神を祀る祠があった。天保10年（1839）、その地に本殿・拝殿を造営して「榎木神社」が創建され、堀川戎神社末社の稲生神社の分霊を合祀したが、明治40年（1907）の神社合祀により、堀川戎神社と合併して同社境内に遷座した。

（チ）「太融寺（ﾀｲﾕｳｼﾞ）」　北区太融寺町3
・高野山真言宗の寺院。 嵯峨源氏の祖である源 融（ﾄｵﾙ）ゆかりの寺で、古くから当寺付近の地名にもなっている。
・伝承によれば、弘仁12年（821）、空海がこの地にあった霊木から地蔵菩薩と毘沙門天を作製し、それを祀る草庵を結んだことが当寺の始まりとされる。 翌年には嵯峨天皇の勅願により、空海が天皇の念持仏である千手観音を本尊として正式に寺院としたと伝えられる。 承和10年（843）には、嵯峨天皇の皇子である左大臣・源融によって八町四面の大伽藍が建立され、源融の諱から寺名を「太融寺」と改められた。
・昭和20年の大空襲で全焼するが、本尊は無事であり、戦後になって本堂、大師堂以下20余りの堂宇が再興された。

4. 大川端・西側

（1）「近畿中国森林管理局」　北区天満橋1丁目8
・明治22年（1889）に「大阪大林区署」として設立され、大正13年（1924）12月に「大阪営林局」と改称されて内久宝寺町2丁目に局舎があったが、戦後、この地に移転した。
・平成11年3月、機構改編により「近畿中国森林管理局」となり、石川・福井県から近畿・中国地方の各県を管理区域として管下に14森林管理署・森林管理事務所を擁している。

（2）「OAP（大阪アメニティパーク）」　北区天満橋1丁目8
・もと「三菱金属鉱業・大阪製錬所」跡地・約5haを再開発して誕生した大型複合施設ゾーンで、超高層タワービル「OAPタワー」（軒高176m）を核にして、オフィス、ホテル（帝国ホテル大阪）、ショッピングエリア、マンションなどが立ち並んでおり、平成8年（1996）から平成12年にかけて順次開業した。

「三菱金属鉱業（現・三菱マテリアル）・大阪製錬所」
・明治24年（1891）、もと「藤堂藩蔵屋敷」跡に、生野鉱山の半製鉱物を製錬するため官営の「大阪製錬所」として開設され、その後、三菱合資会社に払下げて、昭和49年11月に「三菱金属鉱業・大阪製錬所」となった。
・平成元年（1989）12月、金製錬部門を直島製錬所に、銅製錬部門を堺工場に移管して、閉炉となった。

「OAPタワー」
・平成8年1月に竣工した地上39階・地下3階（軒高176m）の複合ビルで、オフィス・レストラン・クリニック・インドアゴルフ練習場などがテナントとして入っている。

「OAPレジデンスタワー」
・地上31階・地下1階（軒高105m）の超高層タワーマンションで、2棟並んでおり、東館

（224戸）が平成10年2月、西館（326戸）が平成12年12月に竣工している。
・分譲開始当初、土壌汚染や地下水汚染が残っていた事実を隠匿して分譲していたことが、後に発覚し社会問題となった。

(3)「帝国ホテル大阪」　北区天満橋1丁目8

・平成8年3月にオープンした帝国ホテル系のわが国を代表する高級ホテル。
・地上24階・地下2階建て、客室数387室で、レストラン・挙式＆披露宴会場・大小会議室やショッピングエリアのほか、会員制フィットネスクラブも備えている。

「OAPホテルタワーアネックス（帝国ホテルプラザ大阪）」

・ホテルタワーの北側に隣接する地上5階・地下3階建て建物で、ホテルと同時にオープンした。 地下1階～地上2階にはホテルのブランドショッピング街「プラザ大阪」があるほか会員制フィットネスクラブの関連施設が設けられている。

(4)「造幣局」　北区天満1丁目1

・明治4年(1871)、かっての御破損奉行所（大坂城内外の建築物の造営・維持管理を担う役所）の材木蔵および川崎御蔵の跡を利用して、日本最初の近代的な貨幣（硬貨）鋳造所である「造幣寮」が建設され、明治10年、「造幣局」と改称された。
・設置にあたって大阪のこの地が選ばれた理由としては、”第一に水利を考え、広大な面積をとるべし。” との基本条件と ”大阪遷都論が背景にあったことと併せ、王政復古に貢献した大阪財界に対する配慮および東京の治安が未だ確率していなかった。”こと等が挙げられている。
・開設にあたって、必要な製造機械類は諸外国の最新鋭品が移入され、ガス発生設備をはじめ機器運転に必要な動力も自前で調達する等、当時の工業近代化に貢献した。
・現在では、硬貨の製造のほか勲章・褒章及び金属工芸品等の製造、地金・鉱物の分析及び試験、貴金属地金の精製、貴金属製品の品位証明（ホールマーク）などの事業を行っており、東京・札幌・長野オリンピックの金・銀・銅メダルや名古屋城の金鯱なども製作されている。
・また、造幣局では、製造した貨幣の量目を試験し、通貨に対する信頼を維持するため、明治5年以降、毎年、政府の執行官立会のもと、”製造貨幣大試験”が実施されている。
・なお、紙幣（（日本銀行券））は、東京の「国立印刷局」で印刷・統括されている。

「造幣博物館」

・明治44年（1911）築の旧造幣局火力発電所の施設（煉瓦造り・3階建て）を再生利用し、昭和44年（1969）に開館した貨幣博物館で、一般開放（無料）されている。
第1室＜造幣局の歴史＞ … 創業当時の造幣局全景模型、当時使用されていたガス灯や天秤などを展示 （2つのガス灯は現存する日本で最古の西洋式ガス灯。）
第2室＜現在の造幣局及び体験コーナー＞
第3室＜日本の貨幣の歴史＞ … 和同開珎・慶長小判など日本の貨幣を展示
第4室＜外国の貨幣、貨幣セット及び金属工芸品＞
世界のコインやオリンピックのメダル・国民栄誉賞の盾などの金属工芸品を展示

「桜の通り抜け」

・かって北側にあった藤堂藩蔵屋敷敷地内にあった多くの桜が、建設時に移植され、その後も構内の大川沿いに多品種の八重桜が植え続けられて桜並木が整備されていった。
・明治16年（1883）に、当時の造幣局長が「局員だけの観桜ではもったいない。市民の皆さん方と共に楽しもうではないか。」と発案し、満開時の数日間、構内の川岸を開放することになったのが始まりで、「桜の通り抜け」の呼称は明治40年（1907）頃に定着した。
現在も、4月の1週間、南門（天満橋側）から入って、造幣局構内を通り、北門（桜宮側）に抜けて観桜する「通り抜け」が恒例になっている。

(5)「泉布館」と「旧桜宮公会堂」

「泉布館」　北区天満橋1丁目1

・明治4年（1871）に、造幣寮（現・造幣局）の応接所として建設された2階建て洋風建築で、完成の翌年に明治天皇が行幸された際の行在所とされ、、貨幣を意味する ”泉布” と館を意味する ”観” をとって「泉布観」と命名された。

・大正6年に大阪市に移管され、昭和31年に国の重要文化財に指定された。

建物は、国産の煉瓦造りの2階建てで、外周にトスカナ式の花崗岩の円柱が立っており、1・2階ともに正面及び両側面の三方に吹き放ちの廊下がめぐらされ、正面中央の2階には展望所が設けられている。

内部は、高い天井からシャンデリアが吊るされ、2階の部屋には楕円形の暖炉が設置されていて、”玉座の間” もある。（内部公開は毎年3月の3日間程度のみで、事前申込制）

「旧桜宮公会堂」

・昭和8年（1933）に、もと造幣寮鋳造所の正面玄関（明治4年・築）を移築して建築された建物で、正面には古代ローマ建築の様式であるトスカナ式石造円柱の上に三角形の切妻壁が載るギリシャ神殿風様式が残されている。 国の重要文化財でもある。

・平成25年に建物内部をリノベーションし、レストランとして再活用されている。

(6)「洗心洞」跡と与力屋敷　北区天満1丁目25

・造幣局の西側にある造幣局官舎の敷地内に、大塩平八郎（1793～1837）が邸内で開いた陽明学の私塾「洗心洞」の跡がある。その名は、易経の「聖人これを以て心を洗ひ、密に退蔵す」に由来するとされる。

開設時期は不詳であるが、文政4～7（1824～27）年にかけての頃と推測されており、天保8年（1837）2月の乱もこの地から蜂起されている。

・門弟は40～50人におよび、うち塾生は全員寄宿して文武両道に徹した。

・この辺りは、江戸時代に大坂町奉行配下の与力30騎、同心50人の官舎が置かれており、その一画に与力である大塩平八郎の邸もあったわけで、現在も「与力町」と「同心町」の町名が残っている。

「中嶋家の役宅門」

・洗心洞跡の南西部に、与力であった中嶋家の役宅門が移設（平成12年に改築）されて保存されている。

(7)「川崎東照宮」跡　北区天満1丁目24

・「市立滝川小学校」の地には、江戸時代に「川崎東照宮」が鎮座していた。

「川崎東照宮」

・2代将軍・秀忠は各地に家康公（権現様）を祀る東照宮を建てることを命じ、大坂では元和3年(1617)、時の大阪城主で家康の孫にあたる松平忠明が、もと有楽斎織田長益の別荘地があったこの地に「川崎東照宮」を造営した。

大坂に於ては、一説には豊臣氏を敬う大坂の人々の思いを薄れさせるために建てられたとも言われている。

・一般の町人は、日ごろ東照宮の境内に入ることは許されなかったが、毎年家康の命日（4月17日）を中心に行われた「権現まつり」の時に限り、お参りすることができた。

・大塩の乱（天保8年）で焼失したが復興され、戊辰戦争の時は長州藩の本営にもなった。

・明治6年（1873）に廃舎となり、神輿蔵と石灯籠が天満宮境内に移設されている。

・余談になるが、廃止後に、解体された廃材を使って中之島・玉江橋南の娯楽場に風呂屋を建てた者がおり、”権現様のお社に裸で自由に入れる” として、ある種の優越感に浸る人々で人気を博したとされる。

「市立滝川小学校」

・明治5年（1872）8月、滝川公園北側（旧・天満組惣会所跡地）に開校し、明治44年11月に現校地に移転した。 正門脇に「川崎東照宮跡」碑が建っている。

(8)「天満別院」(もと「天満御坊」)　　北区東天満1丁目8

・織田信長との10年に及ぶ抗争の末、天正8年(1580)に石山(大坂)本願寺を退去した本願寺は、紀州・鷺森から泉州・貝塚(天正11年)へ移り、天正13年に秀吉の命によって天満川崎の地に「天満御坊」(川崎本願寺)が創建された。 上記・「川崎東照宮」の東側(造幣局の南側)付近にあったとされる。

・天満御坊(本願寺)は、天正19年に京都堀川へ移され、慶長7年(1602)には、「西本願寺」と「東本願寺」に分かれますが、慶長6年、天満御坊の伝統を受け継ぐものとして跡地に「天満別院」(真宗大谷派)が創建され、慶長13年(1608)に現在の地に移転した。

・昭和20年の大空襲で焼失した後、境内地が南北に二分され、北側は「天満別院墓地」として整理された。 さらに境内地の西半分程を「読売テレビ大阪本社」に貸与し、その資金で昭和35年(1960)に本堂が復興され、平成12年には鉄筋コンクリート造りの現本堂を新築した。 門前に「本願寺舊蹟　大谷派 天満別院」の石柱が建っている。

(9)「大坂三郷天満会所」跡

・川崎公園の北西角に「天満組惣会所跡」碑が建っている。

・江戸時代の大坂は、南・北・天満の3つの組に分けられており、天満組は大川の北部がその区域に該当した。 それぞれの組は町人による自治に任されており、惣会所は、組を統括する惣年寄以下の役職者が事務にあたる場所で、天満組惣会所の実際の場所は、公園の一筋道を隔てた北西部の一画にあった。

「天満興正寺御坊址」

・また、川崎公園内の東沿いに「天満興正寺御坊址」と記された石碑があり、その石碑文によれば、文永元年(1264)に興正寺第3世源海上人が天満の地に房舎を建立したとされ、明治13年(1880)に「興正寺天満別院」となるも、昭和20年の大空襲で山内すべてが焼失し、昭和40年(1965)、「大阪興正寺別院」として旭区赤川町に再建されたが、昭和63年に現在地である高槻市奈佐原に移転して、現在に至っている。

(10)「扇町総合高等学校」　　北区松ケ枝町1

・大正12年(1923)4月、「市立扇町商業学校」として西扇町(現・天満中学校付近)に開校し、その後、現・北野税務署の地に移転したあと、昭和24年(1949)に現校地に移転した。

・昭和23年の学制改革で男女共学の「市立扇町商業高等学校」となり、平成13年に総合学科(普通教育と専門教育を履修)に改編されて「市立扇町総合高等学校」となった。

・令和4年には、同校と市立西高等学校、市立南高等学校の3校を統合し、この地に普通科系高校が開校する予定になっている。

(11)「北稜中学校」　　北区天満橋1丁目1

・昭和23年(1948)、「市立北第二中学校」として開校し、その翌年に「市立北稜中学校」と改称されて、昭和27年10月、現校地に移転した。

・この地には、旧制・桜宮高等女学校(現・市立桜宮高等学校)があったが、昭和23年に開校した市立都島第二中学校(現・市立桜宮中学校)に転用するため、同校は、現・谷町6丁目の市立南高等学校内に移転した後、昭和30年に現校地の都島区に移転した。
この地に開校した市立桜宮中学校は、昭和27年に現校地の都島区東野田(旧・東野田国民学校跡地)に移転したため、その跡地が「北稜中学校」となった。

・校名は、北区の「北」と、勢いが盛んなこと等を表す「稜」を組み合わせて名付けられた。

(12)「象印マホービン」　　北区天満橋1丁目20

・大正7年(1918)、魔法瓶を製造する「市川兄弟商会」として大阪で創業し、昭和36年(1961)に商号を「象印マホービン」に変更した。

・昭和45年に現在の10階建て本社ビルが竣工し、1～4階に本社が置かれ、5階以上はUR都市機構の天満北市街地住宅(93戸)となっている。
平成20年、創業90周年を記念して1階に「まほうびん記念館」が開設され、マホービンの歴史と”真空の力”による保温・保冷技術に関する資料などを展示している。(無料公開)

(13)「樋屋製薬」　　北区天満1丁目4

・江戸時代から売られる、生薬から作られた小児薬「樋屋奇応丸」で有名な製薬会社。
・永禄6年(1563)、樋屋坂上家が天満(現在地)に移住し、元和8年(1622)に初代・忠兵衛が”奇応丸”を創製する。 昭和18年(1943)に「樋屋製薬株式会社」を設立。
・奇応丸は、一説には唐から鑑真によりもたらされた妙薬といわれ、ジャコウ、ユウタン、ジンコウ等の生薬を材料に、子供の夜泣き、かんむし、ひきつけ、かぜ等に効く。

(14)「大阪保健医療大学」　　北区天満1丁目9

・明治28年(1895)、西区本田にて機械製図法を教える私塾「製図夜学館」として創立され、大正7年(1918)に現校地に移転した。その後、「大阪製図専門学校」から「大阪工業技術専門学校」へと校名が変更された。
・平成12年4月、理学療法士・作業療法士・言語聴覚仕を養成する専門学校として「大阪リハビリテーション専門学校」が設立され、平成21年に理学療法・作業療法専攻の「大阪保健医療大学」が開校した。

(15)「大阪つくば開成高等学校」　　北区天満2丁目

茨城県牛久市に本校を置く通信制課程の高校で、令和2年4月に開校した。

5. 周辺の高層タワーマンション

「シティタワー大阪天満」　樋之口町1
・平成22年2月・築。 地上45階・地下1階建て。 全650戸（分譲）
「ジオタワー天六」　天神橋7丁目1
・かっての「天六阪急ビル」（阪急・天神橋6丁目駅）の跡地に建つ超高層タワーマンション
・平成25年7月・築。 地上44階・地下1階建て。 全400戸（分譲）
「キングマンション天神橋Ⅱ」　天神橋7丁目11
・平成10年2月・築。 地上30階建て。 全188戸（分譲）
「ジオ天六ツインタワーズ」　長柄西1丁目3
・もと「関西大学天六キャンパス」の跡地に建つ高層タワーマンション
・平成30年2月・築。 地上23階建て2棟（ウエスト・イースト）。 全358戸（分譲）
「ファミール天神橋グリーンアベニュー」　長柄西2丁目1
・平成11年2月・築。 地上20階建て。 全113戸（分譲・賃貸）
「ノルデンタワー天神橋」　本庄東1丁目1
・平成15年2月・築。 地上19階建て。 全182戸（賃貸）
「キングマンション天神橋Ⅰ」　天神橋4丁目
・平成9年7月・築。 地上24階建て。 全152戸（分譲）
「パークナード中之島公園ロジュマン」　天神橋1丁目5
・平成22年2月・築。 地上26階・地下1階建て。 全86戸（分譲）
「シティタワー東梅田パークフロント」　野崎町26
・平成30年12月・築。 地上30階・地下1階建て。 全490戸（分譲）
「ジーニス大阪」　菅原町10
・平成15年3月・築。 地上39階・地下1階建て。 全360戸（分譲）
「ロジュマンタワー大阪天満橋」　天満2丁目10
・平成17年1月・築。 地上21階・地下1階建て。 全76戸（分譲）
「ロジュマンタワーOSAKA」　天満1丁目8
・平成18年1月・築。 地上26階建て。 全70戸（分譲）
「エルグレースタワー大阪同心」　同心1丁目3
・平成28年9月・築。 地上25階・地下1階建て。 全143戸（分譲）
「ファミール扇町アーバンステージ」　同心2丁目3
・平成10年11月・築。 地上20階建て。 全190戸（分譲）
「ローレルコート与力町エルグレース」与力町2
・平成17年4月・築。 地上26階・地下1階建て。 全197戸（分譲）
「ユニハイム与力町公園」　与力町1
・平成14年12月・築。 地上21階・地下1階建て。 全98戸（分譲）

6. 主な町名の由来

「天満」…「天満宮」が鎮座していることに由来するが、「天満」の名は、道真が死後に送られた神号である「**天満（ｿﾗﾐﾂ）**大自在天神」から来たといわれ、”道真の怨霊が雷神（「天つ神（ｱﾏﾂｶﾐ）」）となり、それが天に満ちた” ことがその由来とされる。
「菅原町」、「菅栄町」、「紅梅町」… 天満宮に因む町名。かっての「宮の前」「天神筋」も。
「南森町」… 天満宮の地はかって「大将軍の森」と称する神域で、南側にその森があった。かって、南森町の北側に「北森町」の地名もあった。
「長柄（ﾅｶﾞﾗ）」…「な」は魚、「がら」は形、というところから「魚の形をした島」に因む説
「扇町」… 天満堀川に掛かっていた「扇橋」に由来する。
「樋之口町」… 天満堀川の東の河口にあたり、門樋があったことによる。
「国分寺」…「長柄国分寺」があることに因む。
「同心」、「与力町」… 江戸時代に町奉行配下の同心・与力の屋敷地であった。